

---

## 「好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）の長期予後を見据えた治療最適化のための後方視観察研究」に関するお知らせ

---

このたび、当院で診察を行った患者さんの診療録情報を用いた以下の研究を実施いたします。本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

### 研究の概要について

#### 1. 研究の対象となる方

2005年4月1日から2025年12月31日の期間に埼玉医科大学総合医療センターを受診し、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）（旧称：チャージストラウス症候群、アレルギー性肉芽腫性血管炎）と診断され治療された患者さんを対象としております。

#### 2. 研究の目的

好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）は、気管支喘息や好酸球増多とともに血管炎が生じ、全身の様々な臓器障害が起きうる難病、希少疾患です。長期予後を見据えた場合、速やかな診断とともににより病態に則した治療の選択と開始が重要です。現在治療薬としてはグルココルチコイド（GC）、免疫抑制薬（シクロホスファミドパルス、アザチオプリンなど）、IL-5阻害薬（メポリズマブ、ベンラリズマブ）、免疫グロブリン大量静注療法などがありますが、特にGCは様々な有害事象を伴いうる薬剤のため、より早期に減量、可能であれば中止が望ましい治療薬となっています。本研究では後方視的観察研究としてこれまでにEGPA患者に対して行われた治療内容の結果で、病勢のコントロールと共にGC中止ができたかどうかを検証し、長期予後を見据えた治療戦略の構築を目指します。

#### 3. 研究期間

病院長の許可後～2027年3月31日

#### 4. 利用または提供の開始予定日

2026年3月15日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

### 研究に用いる試料・情報について

#### 1. 試料・情報の内容

患者さんの診療録から年齢、性別、病歴、既往症、合併症、身長、体重、薬剤歴といった背景情報と好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）の治療内容、病勢の推移、治療に伴う有害事象

の有無、また診療の際に行われた過去の採血、尿検査、各種画像検査、生理機能検査結果を用います。

※この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センターにおいて、研究責任者である倉沢 隆彦が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

## 2. 試料・情報の取得方法

好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）（旧称：チャーグストラウス症候群、アレルギー性肉芽腫性血管炎）と診断され治療された患者さんの検査データおよび診療記録等を用います。

## 3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

埼玉医科大学総合医療センター リウマチ・膠原病内科 倉沢 隆彦（研究代表者）

## 4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学総合医療センター 病院長 別宮 好文

### お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター リウマチ・膠原病内科 倉沢 隆彦

住所：〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

電話：049-228-3574（土日祝日を除く 9：00～17：00）

○研究課題名：好酸球性多発血管炎性肉芽腫症（EGPA）の長期予後を見据えた治療最適化のための後方視観察研究

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター リウマチ・膠原病内科 倉沢 隆彦